

「ISSとベテルギウス」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

2月10日(日)の夕方、東京のほぼ真上をISS(国際宇宙ステーション)が通過する。今回のISS通過は実に面白い。

イベント	時刻[JST]	方位角(度)	仰角(度)	直距離(km)
仰角が0度を超えた直後	18:00:30	312(北西)	-	2268
見え始めのとき	18:02:30	313(北西)	10	1443
仰角が最大のとき	18:05:30	335(北北西)	75	426
見え終わりのとき	18:09:00	130(南東)	10	1455
仰角が0度を下回る直前	18:11:00	131(南東)	-	2281

上表は、東京でのっ見え方だ。仰角が10度を超えて、見えている時間が約7分間と非常に長い。最大仰角も75度で、ほぼ天頂付近に見えることになる。



今回のISSは、列島を斜めに横断する径路をとる。東京での見え始めは18:02で、その時点では、ISSの飛行体は、まだ北朝鮮上空にある。18:05~06分頃に最大仰角になり、東京上空を通過する。ISSの飛行士からは、東京の美しい夜景が見えるだろう。

天球上の径路図も大変興味深い。北西の地平線から昇ってきたISS飛行体は、18:04頃、カシオペア座を横切る。18:05過ぎに最大仰角に達し、天頂付近のペルセウス座を横切る。その後、ぎょしゃ座とおうし座の間を通り、18:07頃には、オリオン座に達する。ベテルギウスと重なるほど近くを通るはずだ。その後「冬の大きな三角」の真ん中と進み、南東の地平線に消える。

冬の主な星座の間を堂々と進む今回のISS。日曜日は朝まで雪になりそうだが、夕方に晴れたら、私は「教育の森公園」で観望したいと思っている。

